２　各教科等の経営計画

国語科経営計画

教科部　近藤　葉子
間瀬　智祐
石井　里美

１　教科で目指す生徒の姿

相手や目的に対してふさわしい言葉を選択し、活用して自分の思いや考えを伝え合うことができる生徒

２　研究の重点と具体策

(1) 生徒が自分の興味・関心を追究できるよう生徒の視点で授業をデザインする

① 生徒が興味・関心をもてるよう、導入を工夫し、教材を身近に感じたり、問題意識をもったりできるようにする。

② 問題解決の手がかりとして、生徒が単元に関連する既習事項を想起する場面を意図的に設け、主体的に取り組むことができるようにする。

③ 学習の流れやねらい、手立てを具体的に示し、生徒自身が目標や見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。

④ 協働的に課題解決を図る上で最適な意見交流の形態（ペア、グループ、ワールドカフェ方式、自由討論等）を生徒自身に選択させる。

(2) 「わかった」が「できる」につながるよう、学習状況を把握し授業改善する

① 他者と協働して行う「言葉に着目した表現活動」など、習得した資質・能力を発揮する場面を意図的に設定する。

② 授業後に、学習課題とまとめが対比できるような構成的な板書を工夫する。

③ まとめや振り返りの共有を通して、学んだことや身に付いた力の価値付けや意識化をする。

④ 作詩や句作、作文等の表現活動や作品を基にした生徒同士の交流、継続的な言語事項を確認する活動を通して、豊かな表現力と語彙を身に付けられるようにする。

社会科経営計画

教科部　小野　　覚
安藤　　陽

１　教科で目指す生徒の姿

これからの社会の発展について広い視野で考え、主体的に社会に関わろうとする生徒

２　研究の重点と具体策

(1) 生徒が自分の興味・関心を追究できるよう生徒の視点で授業をデザインする

① 生徒の中に問いが生まれるように、生徒全員が参加できる導入を工夫する。

② 主体的に学習課題を解決するために、課題解決のための予想や見通しをもつ場面を設定する。

③ 生徒一人一人が自らの学習の進度に合わせて学習を進めることができるように、個で学ぶ、仲間と学ぶ、教師と学ぶなど、学び方を選択できるような柔軟性のある学習過程を設定する。

④ 生徒が自己の変容や成長を実感し、よりよく学ぶことができるように、「学んだこと」をまとめたり、「学び方」について振り返ったりする場面を設定する。

(2) 「わかった」が「できる」につながるよう、学習状況を把握し授業改善する

① 生徒が学び方を調整し、理解や考えがより広まったり深まったりできるように、発問の工夫や考えをつなげるなど、教師のファシリテーターとしての役割を充実させる。

② 「わかった」をより確かなものとするために、終末で学習課題に対する結論を自分の言葉でまとめる場面を確実に設定する。

③ 生徒一人一人がより主体的に学習を推進できるように、授業中や単元終了後など、適切な場面で生徒の学習改善につながる評価を意図的に行う。

数学科経営計画

教科部　佐藤　和哉
鷲谷　　衛
長崎　涼子
北嶋美智夫

１　教科で目指す生徒の姿

学びへの興味をもって、自己調整を行い、粘り強く数学に取り組む生徒

２　研究の重点と具体策

(1) 生徒が自分の興味・関心を追究できるよう生徒の視点で授業をデザインする

① 生徒の考えを生かした学習課題を設定するために、導入の段階で「分からないこと、できないこと」を明確にする。

② 見通しをもって課題解決に向かうことができるようにするために、自分なりの考えや予想をもつ時間を設定する。

③ 日常生活と関連のある事象から課題を見いだすことで，数学の有用性と数学を学ぶ価値に気付かせるようにする。

④ 本時の成果や改善点、疑問点など次時につながる振り返りを行うことで学習の動機付けを行う。

(2) 「わかった」が「できる」につながるよう、学習状況を把握し授業改善する

① 数学的な見方や考え方のよさを実感できるようにするために、比較・検討の場を意図的に設定したり、具体物を用いた操作活動を取り入れたりする。

② 生徒が「分かった」、「できた」という成就感を感じることができるように、終末で本時の学習内容に即した小テストを行ったり、応用問題を与えたりする。

③ 少人数指導の充実やＩＣＴの活用等により、個に応じた指導の充実を図る。

④ 児童生徒ができていることや、困っていることなどの学習状況を丁寧に見取り、一人一人の考えを生かして、ねらいの達成につながる学び合いを展開する。

⑤ 単元指導計画の中に、生徒が自分のペースで学習できる時間を組み込めるような授業づくりを心掛ける。

理科経営計画

教科部　小玉　隆幸
佐藤　信誠
半田　昌幸

１　教科で目指す生徒の姿

自然の事物・現象について、問題解決の活動に主体的に取り組む生徒

２　研究の重点と具体策

(1) 生徒が自分の興味・関心を追究できるよう生徒の視点で授業をデザインする

① 関心を高め、問いを引き出すためのしかけをもとにした学習課題を生徒と共に設定する。

② 見通しをもって課題や仮説を設定したり、観察実験の計画を立案したりするなど、学習過程のつながりを重視する。

③ 自分にふさわしい方法で学習を進めたり、自分の考えを伝えたりできるように、生徒が学び方を選択できるようにする。

④ 学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直したり、習得した知識及び技能を活用して考えたりする活動を取り入れる。

(2) 「わかった」が「できる」につながるよう、学習状況を把握し授業改善する

① 予想や仮説を踏まえて自身の学びはどう変容したのかなど、振り返りの視点を明確にし、次時へのつながりをもたせるような意図的な振り返りの場面を設定する。

② 自己評価や相互評価を適宜取り入れ、「わかっていること」「できていること」などの生徒の学びの現状を把握するとともに、自己調整力の向上を図る。

③ 互いの考えを伝え合い、理解を深めたり、見直したりする試行錯誤の機会をもつ。

④ 生徒同士の関わりを通して、予想や仮説、解決の方法、考察した内容の妥当性を検討する活動を重視する。

音楽科経営計画

教科部　山田　翠

１　教科で目指す生徒の姿

思いや意図をもち、他者と協働しながら音楽活動に取り組む生徒

２　研究の重点と具体策

(1) 生徒が自分の興味・関心を追究できるよう生徒の視点で授業をデザインする

① 導入において生徒にとって身近に感じるものを提示することで、楽曲に対する興味を引き出す。

② 教師対生徒のやりとりにならないよう、生徒同士の意見をつなぐことを意識する。そのために、生徒同士の考えを比較させたり、関連付けさせたりする。

(2) 「わかった」が「できる」につながるよう、学習状況を把握し授業改善する

① 思いや意図を一人一人が言葉で表すことができるよう、個の時間を確保する。

② 実感を伴って理解を深めることができるよう、言葉での交流だけでなく、音で試すこと、聴いて確かめることを行う場面を設定する。

③ ペアやグループなど、様々な活動形態を用いることで、新たな気付きや、表現の深まりにつながるようにする。

④ 自身の現状を把握し、本時での気付きや他者から学んだことの振り返りを蓄積することで、他の題材にも繋がるようにする。

⑤ うまくできた時には褒め合い、思うようにできない時には助言し合える雰囲気づくりをする。

美術科経営計画

教科部　近江和佳子

１　教科で目指す生徒の姿

・感性や想像力を働かせ、自己の思いを色や形で豊かに表現する生徒

・表現及び鑑賞の活動を通して、作品のよさを理解したり、愛着をもったりする生徒

２　研究の重点と具体策

(1) 生徒が自分の興味・関心を追究できるよう生徒の視点で授業をデザインする

① 学習の見通しをもち、課題や学習のねらいを意識させるような課題を設定する。

② 活動全体の流れをつかみ、見通しをもって学習に取り組むことができるよう、振り返りカードを工夫する。

(2) 「わかった」が「できる」につながるよう、学習状況を把握し授業改善する

① 題材への興味・関心を高めるため、また,作品に関して発想や表現の参考にするために、美術作品や生徒作品などの実物を提示する。

② グループ活動を取り入れ、他の生徒との意見交流を通して、互いに学び合い、様々な考えに気付き、作品に対する見方や感じ方を広げることができるようにする。

③ 思ったことや感じたことについて、自分の言葉で書いたり、発表したりできるように、机間指導などで一人一人の発想や表現に目を配り、つまずきに合わせたアドバイスや質を向上させるヒントを提供したり、優れた取組を紹介したりする。

④ 生徒の理解が深まるように、ＩＣＴ機器を利用したり、参考資料の提示等を工夫したりする。

保健体育科経営計画

教科部　森内　厚志
佐々木想良

１　教科で目指す生徒の姿

「する」「みる」「支える」「知る」などの多様な関わり方を通して、運動の喜びや楽しさを感じ、主体的に学習に取り組む生徒

２　研究の重点と具体策

(1) 生徒が自分の興味・関心を追究できるよう生徒の視点で授業をデザインする

① 生徒の実態や、前時の振り返りを生かした課題の設定により、学習に対しての必要感をもてるようにする。

② 課題解決に効果的な学習内容、生徒相互の関わり方や役割の明示により、学習に対しての見通しをもてるようにする。

③ ＩＣＴ機器の効果的な活用場面の設定により、生徒一人一人が自分の変容を視覚的に捉え、解決への道筋を考えたり、修正の見通しをもったりすることができるようにする。

(2) 「わかった」が「できる」につながるよう、学習状況を把握し授業改善する

① 学習した内容を「する・みる・支える・知る」の視点から捉えることにより、自分の適性に応じた関わり方があることに気付く機会とする。

② 活動の目的や関わり方の視点を明確にした話合いをすることにより、様々な考え方に気付き、互いのよさを認め合い、そこでの気付きを自分自身や学級全体に生かす機会とする。

③ 本時の気付きや学びを言語化し、振り返りシートや発表で共有することにより、思考を整理し、次時の課題を明確にする機会とする。

技術・家庭科経営計画

教科部　藤沢　奈央
伊藤　国秋

１　教科で目指す生徒の姿

生活や社会からの要求の中から課題を発見し、進んで課題を解決し、生活をよりよいものにしようとする生徒

２　研究の重点と具体策

(1) 生徒が自分の興味・関心を追究できるよう生徒の視点で授業をデザインする

① 学習課題の設定では、授業で何を学んだり、何を達成したりすれば学習課題を達成したと言えるのか、生徒が自ら表現できるようにする。

② 単元の１時間目には、本時の課題（目指す姿）だけではなく、単元の課題（目指す姿）も提示し、学習を通して何ができるようになればよいかが具体的に分かるようにする。

③ 導入において、ＩＣＴ機器の活用や写真や動画、実物、見本など、生徒が学習内容に見通しをもったり、学習意欲が湧いたりするような工夫をする。

(2) 「わかった」が「できる」につながるよう、学習状況を把握し授業改善する

① 毎時間の振り返りでは、生徒が自らの理解度や授業での疑問などを一覧になるようにシートに記入していくことで、学習課題に照らし合わせながら学びについて振り返られるようにする。

② 考えを共有したり、自分の考えを見直し修正したりしながら、最適な解決方法を見つけていけるよう、ペア学習やグループ学習、ジグソー法などの学習形態を工夫する。

③ ロイロノートの共有ノートを活用することで、「協働」で学ぶ意識を高め、他者参照をしながら、自分の考えを深めたり、広げたりできるようにする。

④ 単元毎に生徒や教師が学習の理解度を把握するための確認テストを行い、その結果を授業につなげる。

⑤ 課題解決のための探求的な学習を展開するために、タブレットなどＩＣＴ機器を活用し、生徒の主体的な学びが深まるよう、学習形態を工夫する。

英語科経営計画

教科部　鈴木　健裕　　加藤　　剛
鈴木理恵子　　杉本亜沙美
児玉　理紗

１　教科で目指す生徒の姿

コミュニケーションや情報伝達の目的・場面・状況を考え、英語での見方・考え方を働かせた上で、相手とやり取りをしたり、必要な情報を得ようとする生徒

２　研究の重点と具体策

(1) 生徒が自分の興味・関心を追究できるよう生徒の視点で授業をデザインする

① 単元や１時間ごとの学習の見通しを示し、授業を通して身に付けるべき力や、表現等を生徒自身が把握し学習に向かえるようにする。

② 生徒に関わる話題ややりとりの場面から課題を設定し、生徒自身が必要感をもって授業に向かえるよう工夫する。

③ 帯活動を設定し、学習事項の確認や活用の練習を、実際の言語使用とともに繰り返して行えるようにする。

④ ４技能５領域の面において、生徒自身が自分の力を理解しながら学習に向かえるよう、ステージごとのパフォーマンステストを取り入れる。

(2) 「わかった」が「できる」につながるよう、学習状況を把握し授業改善する

① 即興性のあるやりとりができるようにするために、スモールトークなどを計画的に設定する。

② コミュニケーションを行う場面や目的を意識させ、どのような表現が適切か考え、英語での見方・考え方を働かせる。

③ ＡＬＴなどの多くの人とやりとりをする経験を積ませることで、会話を継続・発展させる手立てが身に付いたり、よりよい表現等を追究したりできるようにする。

④ ICTを活用し、生徒自身が自分の英語力を把握したり、繰り返し練習できるようにしたりすることで確かな力の定着を目指す。

道徳科経営計画

教科部　　山田　　翠
藤沢　奈央
石井　里美

１　教科で目指す生徒の姿

・自分自身を見つめ、自分の生き方についてじっくりと考える生徒
・自分の考えと友達の考えを比較し、そこから新しい考えを膨らませることができる生徒

２　研究の重点と具体策

(1) 授業の実践

① 学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握できるようなワークシートの工夫をする。

② 生徒が追究したくなるような課題を設定し、主体的に学習に取り組めるよう工夫する。

③ 本時での新たな気付きや、本時の学習を通して感じた自分自身のこれからについて考える時間を保障する。

④ 学年内で授業をローテーションで担当し、生徒の学習や成長の様子を複数の教師の目で見取り、多面的・多角的に把握できるようにする。

(2) 自発的な思考を促す工夫

① 道徳的価値を自分のこととして考えたり感じたりすることができるよう、多様性を生み議論につながる発問を吟味する。

② 互いの考えの共通点や相違点への気付きを通して、自分を見つめ道徳的価値に対する理解を深められるようにする。

③ 課題の明確化や焦点化、また、広い視野から多面的・多角的に捉えられるような板書の構造化を目指し、学習内容の確認につなげる。

④ 心情グラフ、心情プレート、ネームプレート、付箋紙、ＩＣＴなどを活用し、互いの価値観を可視化することで、話合いの充実を図る。

特別活動経営計画

主任　鈴木　健裕
近藤　葉子
間瀬　智祐

１　教科で目指す生徒の姿

学級や学年、学校の一員として、自分たちの課題を発見し、それを解決するための合意形成や意思決定、解決に向けた取り組みができる生徒

２　研究の重点と具体策

(1)　学級や学年、学校の一員としての見方・考え方を働かせながら、よりよい人間関係を築き、互いを認め合いながら生活しようとする心の涵養

①　集団の形成者としての見方・考え方を働かせながら、行事や学校生活の中での自分の役割を自覚し、自分の役割を果たすことで互いの信頼関係を構築し、よりよい人間関係が築けるよう、適宜支援を行う。

②　学年や学校への所属意識を高めるために、生徒企画の学年集会や全校集会を実施し、生徒同士の横や縦の繋がりを強め、全体の場面で一人一人の生徒が活躍できる場面を意図的に設定する。

③　４Ｓを意識した月目標を設定し、廊下に掲示することで、頑張っていることや互いの考え・目標を共有し、励まし合いながら諸活動に取り組めるようにする。またそれをポートフォリオとして活用し、自己理解や向上心の喚起を促す。

(2)　集団生活の向上を目指す話合い活動の充実

①　生徒が学校生活や生徒会活動の実態を把握し、課題解決に向けて必要なことを考えたり調べたりすることで、より当事者意識をもって合意形成等ができるようにする。

②　集団の形成者として、決定したことを最後までやり遂げられるよう支援し、活動後の振り返りを充実させることで、互いの頑張りを賞賛し合い、自己有用感が高まるようにする。

(3)　生徒が自主的に実践する生徒会活動や学校行事の充実

①　委員会活動では、ＳＤＧｓやよりよい学校生活の実現を意識した活動を実践することを通して、委員会活動の活性化を図る。

②　南中祭や体育祭などの学校行事では、企画内容に生徒会の意見を反映させ、主体的な活動を促す。

③　昼休みを生徒会活動や学年活動で活用することで、自立・自修を支える自主性や行動力、判断力等を育む。

(4)　道徳科・キャリア教育との連携

①　集団活動の中で、よりよい集団決定や優れた自己決定を的確に見取り価値付けることを通して、自己肯定感を育成する。

②　学校行事の企画・準備における生徒の取組を的確に見取り、「認めて、ほめて、励ます」ことを通して、道徳的実践力の育成につなげる。

③　ＣＳＷや天南ＧＰなどを通して自分なりに将来について考えたり、進路決定したりする機会になるよう、話合い活動や行事等において自己決定の場を設定する。